

山行報告

★鹿倉山(12月4日)

参加者 会員(障害者7名、健常者9名)
会員書(健常者1名)

前回の岩本山は4人だけの参加だったが、今回は17人と大幅に増えてにぎやかな山行になった。しかも、天気は最高で、電車の中から昨日の雪に染まった富士山がきれいに見えた。

奥多摩駅では、トイレに行く時間がないのに行った人がいて、先頭のバスが出発してから後のバスに飛び込んできて間に合った。

今回、計画では丹波から登る予定だったが、予定のバスが鴨沢西までしか行かないことを、Fさんが調べて教えてくれたおかげで、逆コースから登ることに変更したが、これが大正解だった。当初予定していたコースだと、急なところが下りになるので、相当時間がかかってしまったと思われる。しかし、急なところが登りになったため、予定よりも早く降りられることになった。Fさんに感謝です。

バスを深山橋で降り、自己紹介をする。今回は、Tさんが初参加だ。Tさんは岡山出身で、岡山のこまくさハイキングクラブに所属していて、視覚障害者の人たちと登山をしていたそう。サポート経験があるので、心強い限りだ。

深山橋を渡って大寺山への登山口に行く。道路の反対側にあったトイレで用を足し、急な登

山道に入っていく。



片側が切れたところを通過する

登山道はいきなり急登だが、高度はぐんぐん稼げる。この付近は、まだ紅葉していて、時折きれいに色づいたカエデなどが見られた。尾根に上がると少し傾斜が落ちるが、まだまだ登りが続く。左右が切れた痩せ尾根もあり、気が抜けない。しかし、葉を落とした木々の向こうにいろいろな山が見える。左手には三頭山が見え、その左奥には御前山が見えている。奥多摩湖も見えていた。



大寺山の仏舎利

最後の急登をがんばると、真っ白な仏舎利が異様な大寺山に着く。金色の大仏さんが四方に

ある立派すぎる巨大な仏舎利だ。



ここで休憩して、先を急ぐ。ここからは、切れたような危険な場所はほとんどなくなった。雑木林があり、白樺の多い林があり、カラマツ林もあって、なかなか変化に富んでいる。右手には、鷹ノ巣山からセツ石山への石尾根がよく見え、雲取山も見えていた。その左手には飛龍山もよく見えている。右側には、三頭山の他にも、奈良倉山や鶴寝山、さらに大菩薩嶺も見えている。そんな展望を楽しみながら、小さなピークで昼食タイムとした。そこで、頭を少しだけ出した富士山を見つめることができた。太陽の光を受け、テカテカと光り輝いていた。Yさんが、枯れた木の枝に、きれいな黄緑色のウスタビガの繭を見つけてくれた。

昼食後も、緩やかな登りが続くが、ほどなく鹿倉山の山頂に到着した。西側の展望があると昭文社の地図に書かれていたが、ほんのわずかに大菩薩嶺と富士山が見える程度だった。それでも、葉を落とした木々の間から、鶏冠山やその向こうに奥秩父の山々が見えていた。

山頂からの下りも危険なところはなく、比較的緩やかだった。尾根を外れて、林道のようなところを歩き、大丹波峠に着く。ここで、丹波側か川久保側か、どちらに下るか判断することにしていたが、時間に余裕がありそうなので、

丹波側に下ることにする。順調に下れば、16時30分発のバスに間に合う。遅れると18時21分発だが、川久保側は17時32分発。少し心配もあったが、丹波側に下ることにする。



やや急な山腹に付けられた道から、沢に下りていく。沢に付けられた橋は、滑りやすく注意が必要だったが、順調に下り、マリコ川にかかるマリコ橋に、15時35分に到着する。予定よりも早い時間だったので一安心だ。あとは、車道を歩いて、最後に丹波川を渡る。飲み物もあるということで、温泉には入らなかったが、のめこい湯まで歩く。

量は少なかったが、山中で拾ったごみを捨てさせていただき、16時32分発のバスに乗り込んだ。すると、バスの中でHさんに出会った。六つ星山の会のGさんもいるではないか。下見で、大菩薩峠を越えてきたらしい。せっかくだだったので、拜島で懇親会を開いて家路につきました。

コースタイム

深山橋(9:30) … 大寺山(11:00-11:10) … 1,140m ピーク(11:55-12:20) … 鹿倉山(13:25-13:40) … 大丹波峠(14:40-14:45) … マリコ橋(15:35) … 丹波役場前(15:50)

★関八州見晴台(12月18日)

参加者 会員(障害者7名、健常者19名)

会員外(健常者1名)

今年の忘年山行は、関八州見晴台だ。すばらしい天気恵まれて、相模、武蔵、安房、上総、下総、常陸、上野、下野の八州が見渡せそうだ。

越生駅からバスで、黒山まで行く。バスに乗っていた人が、普段は閑散としているのに、今日は超満員だなという。黒山に行くのだから、黒山の人ばかりになったのでしょう。

黒山のバス停近くには、広い場所がなかったため、少し歩いてホテルの庭で自己紹介などを行う。また、今年度の最多参加賞や精勤賞（10回以上参加）の表彰式を行う。表彰式といっても、景品を選んでもらうだけだ。

まずは車道歩きとなる。しばらく行くと天狗滝の標識があったが、立ち寄ることなく、さらに進んでいく。次に現れた男滝の脇を登っていく。ここは登山道だったが、次の車道に繋がっている道だった。途中から岩場が現れ、急な斜面を登っていくと、上の車道に飛び出した。

さらに車道を登って、水場があるところから登山道に入る。植林帯を抜けると、パッと明るくなり、行く手に花立松ノ峠が見えてきた。小休止のあと、燦々と降り注ぐ太陽の日差しを浴びて、登っていく。ふもとの街が見えてきた。



丸山付近を歩く

車道に飛び出して、少し行くと花立松ノ峠だった。ここから稜線通しに登ろうと思っていたのだが、間違っ、そのまま車道を歩いてしま

った。それでも、こちらの道は歩きやすく、南側から関八州見晴台に登る。

少し登ると丸山という見晴の良いところに出る。木々の間から武甲山が見え、その左奥に両神山も見えていた。丸山から少し登ると、また車道に出た。そして最後の登りをがんばると、関八州見晴台のピークに到着する。富士山がよく見え、丹沢の山々から奥多摩、そして武甲山と両神山がよく見える。武甲山の左奥には、奥秩父の山も見えていた。北東側を見ると、日光の男体山がによきと頭を出していた。



関八州見晴台から見た武甲山方面

私たちは、富士山から両神山までよく見える一等地に腰を下ろし、昼食タイムとした。Uさんが、麓で買ってきた小さなみかんを振る舞ってください。Tさんの漬物やHさんのホットワイン等々、いろいろなものが振る舞われて、幸せ太りしそうだ。

山頂で記念写真を撮った後は、来た道を引き返す。そして高山不動尊に立ち寄る。トイレを済ませ、急な階段を下りると、見事な大イチョウが枝を広げていた。



関八州見晴台にて

ここから右手に折れ、不動三滝への道と分かれ、左側に向かっていく。次の分岐には、かわいい石地蔵が立っていた。ここから、Uさんのアドバイスで、歩きやすい萩ノ茶屋跡方面に下る。道は次第に急になってくる。民家が見え、西武線の電車が通るのが見えると、すぐに車道に飛び出した。ここからは、車道沿いに西吾野駅を目指す。

ここで、真っ直ぐ帰るグループと忘年会グループに分かれる。忘年会グループは、飯能駅で電車を降り、今年一年の締めくくりとなる忘年

★甲州高尾山(1月8日)

参加者 会員(障害者7名、健常者13名)

朝は、非常に寒かったが、素晴らしい天気恵まれ、勝沼ぶどう郷駅からは、南アルプスの山々や金峰山がよく見えた。中央線の人身事故でひと電車遅れたNさんを待って、全員がタクシーで大善寺まで行く。

大善寺で自己紹介をして登り始める。今回は、中2のJちゃんと小1のY君が参加で、楽しい山登りになりそうだ。



まずは急登をがんばる

まずは、いきなり急登となる。中央高速道路を走る車の音を聞きながら、ぐんぐん登ってい

会で盛り上がり、懇親を深めつつ、来年への英気を養った。

今年1年、みなさまに大変お世話になりました。また来年もよろしくお願いいたします。

コースタイム

黒山(10:20)…花立松ノ峠(12:00)…関八州見晴台(12:40-13:30)…高山不動尊(14:00-14:10)…石地蔵(14:40-14:45)…道路(15:30)…西吾野駅(15:45)

く。甲府盆地とその向こうに広がる南アルプスの展望がとにかく素晴らしい。

1班のY君は中間付近を歩いていたが、前に来たいということで、前に来て歩くことになった。うれしそうな笑顔が、とにかくかわいい。



展望の良い尾根を歩く

傾斜が落ちて、鉄塔の建っているところが柏尾山のはずだが、標識はなかった。展望があまり良くないので、もう少し行って休憩とする。尾根上の登りとなったので、塩山方面が見えるようになってきた。尾根にでても、ところどころに急坂があり、アップダウンも何度かあった。

剣ヶ峰への登りは、非常に急だった。時々、Y君と手をつないで登る。車道が現れる手前で富士山の山頂部も見えてきた。林道に出たところで休憩し、さらに急坂を登って、剣ヶ峰に到着する。ここから少し下り、さらに登って、ようやく甲州高尾山に到着した。



甲州高尾山の山頂にて

展望が良く、日が当たって風もなく、気持ちの良い山頂だった。予定よりもかなり早く着いたので、ゆっくりと昼食を取ることにする。ハケ岳もよく見え、奥秩父方面から南アルプス、富士山、三ツ峠山、小金沢連嶺など、周囲の山々が良く見渡せた。



甲府盆地と南アルプス南部方面

帰りは、富士見台方面に歩き、大滝不動尊に下る分岐で休憩する。ここから斜面をトラバー

★湯の丸高原(1月28日～29日)

参加者 会員(障害者4名、健常者12名)

☆1月28日

高速バスは、渋滞の影響で、30分ほど遅れて小諸駅に到着した。駅周辺で昼食を取り、ジャンボタクシーで湯の丸高原に向かう。麓は晴れているが、山の上の方は雲がかかっている。

ス気味に下り、林道に飛び出す。林道を少し行ったところから大滝不動尊まで山道を下る。今回は、登山道が凍っていなかったが、ここは凍っていると、かなり厳しい下りになったようだ。大滝不動尊に着くと、滝が氷瀑となっていた。無数のつららが光ってとてもきれいだ。

大滝不動尊からは舗装された林道を下る。途中にあった氷をY君やJちゃんは折って頬張ったりしている。大きなスズメバチの巣もあった。

途中で大滝不動尊前宮におりる近道を見逃してしまい、そのまま林道を下ってしまった。そのため、後から来るメンバーと離れてしまったが、それほど大差なく、勝沼ぶどう郷駅に予定よりも大幅に早く全員帰り着いた。

素晴らしい天気と展望、そして滅多に見られない氷瀑まで見られて、変化に富んだ素晴らしい山でした。楽しい山行にするために、協力してくださったみなさまに感謝申し上げます。

コースタイム

大善寺(10:15)…甲州高尾山(12:35-13:20)
…富士見台への分岐(13:45-13:50)…大滝不動尊(14:30-14:45)…勝沼ぶどう郷駅(16:05)

強い冬型の影響で、この付近の山々も影響を受けているようだ。浅間山も見えず、ハケ岳は雲に被われていて全く見えなかった。

湯の丸高原にある峠は、地蔵峠と言い、麓から峠まで80体、その下の温泉まで100体のお地蔵様が設置されている。湯治する人の、安全を祈るために設置されたらしい。

登るにつれ、次第に雪がでてきた。雪の量は、平年並みくらいだろうか。ロッジに着き、外の温度計を見ると、氷点下8℃だった。今年の3月で、閉鎖される湯ノ丸ロッジには、今回が最

後の泊まりとなる。今回を含めて9回、利用させていただいた。家庭的な雰囲気とおいしい料理、一晩中しっかりと暖房してくださっている心づかい、そして窓から見える雪景色、こんなすばらしいロッジをリーズナブルな費用で泊めていただき、管理人さんとAさんには感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

ロッジに着き、すぐに出発準備をして、湯ノ丸山方面を目指す。Y君が、行きたくないとぐずっていたが、何とか歩きはじめてくれた。

地蔵峠に着くと、前を行っているメンバーは、峠を越えようとしている。コースが間違っていることを伝え、スキー場の横の林道に入っていく。しばらく歩くと、正しいコースに入ったことをひとりだけ気づかずに、はぐれてしまったことが分かった。しかし、すぐに分かり、合流となった。

ロッジに帰りたがるY君に、雪の楽しさなどを教えながら、手をつないで登っていく。前を歩いているメンバーは、夏の湿原のところで待っていた。Y君は、ここでKさんと一緒に引き返すことにする。



Y君たちと離れ、傾斜の増した斜面を登り、尾根に出たらつつじ平を目指す。つつじ平は曇り空だが、雲の厚みが薄いため、明るく、時折薄日が差す天気だった。湯ノ丸山方面もほぼ見えていたが、山頂付近は、ホワイトアウトに近い状態だろうと思われた。

時間的にも、これから山頂を往復したら、遅

くなってしまうので、来た道を引き返すことにする。



湿原には、すでにY君たちの姿は見えず、私たちもぐんぐん下っていく。

ロッジに着き、人数の少ない男性陣がロッジの風呂に入り、女性陣はホテルの風呂に行った。

夜の部は、歌が大好きなY君が次々に歌い、熊さんチームと兎さんチームが交互に歌うことになった。湯ノ丸ロッジの最後の一夜は楽しい歌声で更けていった。



☆1月29日

今日は、スキーをするグループやスノーシューで散策するグループ、そしてソリや雪合戦をするグループに分かれて思い思いに楽しむことにする。

私は、Y君とKさんと3人で、ソリで滑りに行く。しかし、Y君は、ソリはすぐに飽きたようで、雪合戦をしようという。ただ、雪はさらさらでにぎっても固まらず、雪かけゴッコになってしまう。

KさんとY君は、リフトに乗って上まで行ったが、リフトが寒くて、すぐにロッジに引き上げてきた。



ロッジでゆっくりして、スキー組や散策組を

★筑波山(2月5日)

参加者 会員(障害者5名、健常者6名)

会員外(健常者3名)

秋葉原駅から筑波エクスプレスで筑波駅に向かう。車窓から遠く、日光の山々が見えてきた。筑波山は、右に見えたり左に見えたりしながら、ぐんぐん近づいてくる。すばらしい天気恵まれた。

筑波駅からバスに乗って、筑波山神社入口で下りる。車で来ていたIさんと合流し、水戸葵山岳会の3人ともすぐに合流できた。一緒に活動していたのは、20代前半の頃なので、その後、何度か会っている人もいるが、やはりみんな歳を取ったなと、時の流れを感じる。

まずは、自己紹介をして、1班からスタートする。筑波神社の石段を上がり、立派な神社でお参りをする。人の費銭で手を合わせても御利益はありませんね。

神社の左側から始まる登山道を登る。このコースは、ケーブルの線路に沿って、男体山と女体山のコルにある御幸ヶ原に登るなかなか急

待つ。昼食はカレーライスだった。12時20分に予約したタクシーが上がってきた。

ロッジの前で、管理人さんにも入ってもらい、みんなで集合写真を撮る。湯ノ丸ロッジは閉鎖になりますが、ロッジでの思い出は決して消えることはありません。管理人さんとAさんに感謝しながら、ジャンボタクシーに乗り込んだ。長い間、利用させていただき、本当にありがとうございました。

コースタイム

1/28 湯ノ丸ロッジ(14:00)…つつじ平(15:05-15:10)…湯ノ丸ロッジ(16:00)

なコースだ。階段の付いたところが多く、ぐんぐん登っていく。途中で、ケーブルカーの上り下りが行き交うところに出る。ちょうどケーブルカーが来たので、写真タイムとする。緑色の車体がわかば号で、赤い車体がもみじ号だった。

ここを過ぎると登山道は一気に急になる。急登を過ぎると、山腹をトラバースするが、ここはケーブルのトンネルの上だ。今まではケーブルを左に見ていたが、ここからケーブルは右側を通るようになる。しかし、樹木に被われていて、もうケーブルを見ることはできない。



男女川の源流付近から登山道でも雪を見るようになってきた。雪の量は次第に増えて、滑りやすくなっていく。しかし、まだ階段が多いので、軽アイゼンは付けずそのまま登っていく。

11時40分に売店などが建ち並ぶ御幸ヶ原に到着する。ここで昼食タイムとすることにした。下が乾いて日の当たるところを探し、シートを敷いてお昼ご飯を食べる。

昼食後は、軽アイゼンを付け、まず男体山を目指す。私の記憶とは全く違い、岩の多い道となっている。雪も多く、軽アイゼンが威力を発揮していた。最後の急な岩場を登るとその先に祠が見えた。私の記憶にあった樹林帯の中の展望のない静かな山頂というイメージは全く外れていた。



男体山からの下りにある岩場を下りる

山頂はすぐ後にして、登ってきた道を引き返す。御幸ヶ原からは女体山を目指す。こちらの方が雪は多かった。カタクリの里はまだ入れなかったが、春には一面、ピンクに染まることでしょう。



雪の道を登って女体山へ

左手には、以前登った加波山が見えている。視界が次第に開け、祠が見えると山頂に到着する。女体山の山頂は昔と変わらない展望のすばらしい山頂だ。しかし、岩場は滑りやすいので、注意が必要だ。山頂の岩の上に立つと、霞ヶ浦

や関東平野がよく見える。手前には、表筑波スカイラインが走っている。ふり返ると、男体山がよく見えていた。

山頂の岩の上で写真を撮り、水戸葵山岳会の現会員、元会員の4人でも写真を撮った。



女体山の山頂にて

山頂からの下りもかなり雪があるようなので、アイゼンを付けたままにしてもらって下る。こちら岩場が続き、滑りやすいので、注意が必要だ。ただ、こちらはいろんな岩があって楽しませてくれる。まずは、まさに大仏に見える大仏岩、次は北斗岩や出船入り船などがある。水戸葵のSさんから、昔この辺の岩場をボルダリングで登っていたが、神社の方から「ご神体に何をやるのだ。けしからん」と叱られ、この付近の岩場はクライミング禁止になったという話を聞く。私も、そういえばそんな話もあったなと思い出す。もっと水戸葵の人たちに昔話を聞きたかったという意見もあったが、今回は時間がなくて残念でした。



大仏岩

母の胎内岩をくぐり、さらに岩場を下っていくと、最も有名な、弁慶七戻りに到着した。今

にも落ちそうな大岩の下を行こうか戻ろうか、弁慶でさえ七回戻ったという場所だ。みんな難なく通過して、弁慶より強い人たちがばかりだなあと感心した。



弁慶七戻りを通過する

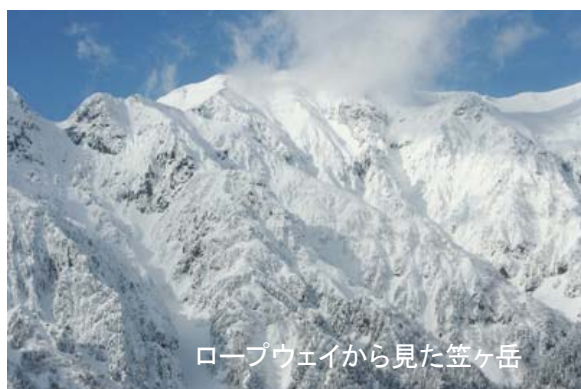
ここまでかなり時間がかかったが、ここからは雪もなくなり、順調に下るようになる。初夏の頃、ツツジが美しいところに来ると、もう心配はいらなくなる。予定のバスより、30分早

★リーダー養成コース（西穂独標）（2月11日～12日）

参加者 会員(障害者2名、健常者2名)

☆2月11日

中央線の車窓から南アルプスやハケ岳の風景を楽しみ、松本駅で穂高岳方面を見ると、雲がかかっている。ただ、乗鞍岳が見えていたので、これからの好天が期待できた。



ロープウェイから見た笠ヶ岳

新穂高ロープウェイに着くと、素晴らしい天気だった。ロープウェイの中から、西穂高岳や槍ヶ岳が見える。笠ヶ岳は山頂部分が雲に隠れ

いバスに乗ることができた。

1さんと水戸葵山岳会の3人の方は、車のため、筑波山神社入口で下車する。サポートもしていただき、ありがとうございました。名残惜しく、今度いつ会えるか分かりませんが、また機会があったら、ぜひ一緒にしましょう。

バスを降りると、岩と雪を楽しんだ筑波山を後に、筑波エクスプレスに乗り込んで、帰路に就きました。数日前とは違って、あたたかな一日で、気持ちよく歩けたかと思えます。みなさま、お疲れさまでした。

コースタイム

筑波山神社入口(9:30) … 御幸ヶ原(11:40-12:30) … 男体山(12:50) … 御幸ヶ原(13:05) … 女体山(13:20-13:35) … つつじヶ丘(15:20)

ていたが、西鎌尾根方面の山々も見えていた。

ロープウェイの頂上駅、西穂高口に着き、展望台に上がって展望を楽しむ。西穂高岳がピラミダルに尖ってすばらしい山容だ。西穂高岳は、ここから見る姿が最も端正な形をしているのではないだろうか？



ロープウェイ展望台から見た西穂高岳

西穂山荘もよく見えている。明日、登る予定の独標もよく見える。さらに中岳、大喰岳の向こうに槍ヶ岳も見えている。西鎌尾根から樺沢岳、双六岳、弓折岳、抜戸岳、笠ヶ岳、そして錫杖岳もよく見えている。後ろ側には焼岳もよ

く見えていた。



ロープウェイの展望台から見た槍ヶ岳

大展望を楽しみ、2メートルほど積もった雪に掘られた迷路のような道を歩きはじめる。



ロープウェイ展望台にて(餘永(光)さん提供)

積雪のおかげで、2mほど高いところを歩いているため、展望は夏よりもずっと良い。オオシラビソに積もった雪は、メルヘンの世界を感じさせる。枝を伸ばすダケカンバは、樹氷となり、真っ青な空にくっきりと映えている。すばらしい美しさだ。



樹氷

小さなアップダウンの続く尾根から小屋に向けての最後の登りとなる。アイゼンを付けなくても登れるが、Yさんはアイゼンを付けて登

ることにする。

樹氷や太陽の回りにできる彩雲など、美しい世界を登り、西穂山荘に到着する。この頃には、空は雲で被われはじめてきた。東側の霞沢岳が雲に包まれつつも山頂までよく見え、遠く、ハヶ岳も見えていた。

明日の天気心配だったので、今日のうちに少し上がって展望を見ることにする。少し上がると、独標から西穂高岳までの稜線がよく見える。ピラミッドピークをはじめとして、いくつものコブを作り、西穂の山頂へと連なっている。さらに上がると、前穂高岳と明神岳も見えてきたが、ここまでで引き返すことにする。



樹氷の中を登る

西穂山荘の前にも大きな雪だるまがあった。山荘は、この時期、泊まる部屋は別館だけのようだ。食堂やトイレは本館だが、山に来る人自体が夏に比べると大幅に少ないので、暖房費などの節約になるのだろう。



西穂山荘の上から見たピラミッドピークと独標

夜半、強風が小屋にぶつかり、慣れていない人は、不安だったようだ。テントで泊まっている人たちも大勢いたが、強風がテントをバタバ

夕とあおり、一層ゆっくり寝られなかったと思う。しかし、それでもお構いなく寝れないと、冬のテントで泊まるのは無理なのだが。

☆2月12日

翌朝、外に出てみると、雪がちらつき、ガスって何も見えない。気温は -14°C だった。それほど厳しい寒さではないが、風は風速 10m はあるだろうか？ 体感温度は、 -25°C くらいだったかも知れない。

天気予報は、午後から晴れるらしいが、午前中は曇りで雪が舞う天気のようなのだ。とにかく行けるところまで行って、無理だと感じたらすぐに引き返すことにして、出発する。

昨夜の間に 10cm ほど、積もったようで、ふかふか雪に付けられたトレースをたどって登る。

視界は非常に悪いが、 10m くらい先までは見えている。早朝に出た人は、ほとんどが丸山やその手前で引き返していたが、この状況であれば、もう少し登れるのではないかと判断した。



視界の悪い中、ロープをつないで登る

なだらかな尾根を歩いて丸山に到着する。Fさんは、どかっと雪の上に座って休むが、強風で滑りやすい雪の稜線では、座ることはとんでもないことだと言うのだが……。とにかく、常にアイゼンの爪を利かせておかないと滑り出す危険が高いし、雪の上に直接座るのは、お尻から身体を冷やすので、絶対にしてはいけないことです。

丸山から上の稜線がわずかに見えているの

で、もう少し登ってみることにする。ザイルで繋ぎあって、コンテニユアスで行く。

ある程度登って、もう少しで独標手前の岩稜に着くかなと思ったが、足の運びが遅く、2～3歩歩いて立ち止まるような状態であったことと、時折激しい強風が吹き付けてくるようになったので、これ以上は危険と判断し、ここで引き返す決断をする。

下りで腰が引けているFさんに、怖がると腰が引けて滑りやすくなるので、普通に足をスッスッと前に出すように指示する。途中から転ぶことが減ってきたようだ。

丸山を過ぎた頃、すりガラスを通したように太陽が見え始めてきた。天気は回復に向かっていようだ。

無事に西穂山荘に到着し、レストハウスで暖かいものを飲み、ちょっと長い休憩をする。小屋の前で集合写真を撮り、名残惜しい山荘を後にする。



西穂山荘の前で

YさんとFさんは、アイゼンを付けて下ってもらうが、私とTさんはアイゼンを付けずに下る。急な斜面に来るとシリセードを楽しみながら下る。急な斜面はあっという間に終わり、アップダウンのある尾根を下りていく。時折日が差すようになり、ふり返ると、西穂が姿を現す時もあった。

最高に美しい冬山と、予断を許さない厳しい冬山の両方を体験できた2日間だったのではないのでしょうか？ Fさんの頬には、軽い凍傷が黧草のようにできていた。

2日間、お疲れさまでした。

コースタイム

2/11 新穂高ロープウェイ西穂高口(14:20)

…西穂山荘(16:00)

2/12 西穂山荘(7:05)…独標手前…西穂山荘
(9:10-10:20)…新穂高ロープウェイ
西穂高口(11:25)

★入笠山(2月19日)

参加者 会員(障害者5名、健常者8名)

今朝は今年一番の寒さではないかと思われる冷え込みだった。錦糸町駅で電車を待つ間も体の芯まで冷え切ってくる。しかし、天気はかなり良さそうだ。

特急あずさは、かなり空いていて、八王子を過ぎても空席があるくらいだった。甲府盆地に入ると、あずさの車窓から南アルプスの山々が見えてくる。雲一つないすばらしい天気だ。

富士見駅で電車を降り、タクシーで富士見パノラマスキー場まで行く。タクシーの運転手さんから聞いたら、今朝、諏訪インターでは-12℃だったそうだ。山麓駅からゴンドラに乗って一気に、標高 1,800m くらいの山頂駅に登る。ゴンドラの中からは、ハケ岳がくっきりと見えていた。

案内板の前で出発準備をして、林道を歩き始める。カラマツは樹氷にはなっていなかったが、澄んだ青空とマッチして冬の高原の雰囲気を感じることができる。

少し歩くと入笠湿原に着く。一旦下って、湿原を通り過ぎて、再び林道に上がる。上がったところには、山彦荘があった。ここから少し林道を歩くとマナスル山荘に着く。ここまで来ると、今まで見えなかった西側の中央アルプスが見えてきた。

ちょっとした広場で、アイゼンを付けて、山頂を目指す。今まで滑って慎重だったMさんもアイゼンを付けたら快調に登ってくる。スノー

シューハイクの人たちが大勢いるが、雪が踏まれてしっかり固まっているので、スノーシューよりアイゼンの方が早い。スノーシューグループの脇を抜かせてもらった。



蓼科山がよく見えるようになり、さらにハケ岳がすばらしいところもあった。とにかくすばらしい天気なので、山頂からの展望に期待が弾む。木々の間から、御嶽や乗鞍も見えてきた。

しっかりした踏み後から外れて山頂への近道に行く先行パーティーがいたので、私たちもそれに付いていったが、なかなか急で、少し手こずった。しかし、目の前に山頂標識が現れ、大きな甲斐駒ヶ岳と仙丈岳が目に入ってきた。



山頂に着くと、360度の大展望が待っていた。「無類の展望を誇る」という言葉が代名詞

としていつも用いられる入笠山だが、これほどすばらしい天気恵まれることは滅多にないのではないだろうか？ 風もほとんどなく、とても穏やかだ。



山頂からは、間近に甲斐駒ヶ岳と鋸岳、仙丈岳、鳳凰三山が見え、富士山も見えている。甲府盆地の左には奥秩父の金峰山が山頂を白くして佇んでいる。その左には、権現岳から始まるハヶ岳が、蓼科山まで、広い裾野を引いて聳えている。その左奥には、四阿山と根子岳が見える。その左には、霧ヶ峰の車山と美ヶ原があり、その下には、諏訪湖がよく見えている。美ヶ原の奥には、北アルプスの後立山の山々が連

なる。そして乗鞍岳があり、少し奥には御嶽山が見える。その左には、中央アルプスがよく見える。まさに360度のパノラマだった。

風がないので、山頂でゆっくりお昼を食べることができた。しかし、山頂には大勢の登山者が休んでいて、とてもにぎやかだった。順番待ちで集合写真を撮り、下山にかかった。



よく踏まれた歩きやすい道を下っていく。入笠湿原では、誰かが作った小さなかまくらに身体を潜り込ませる人もいた。

最高の天気恵まれた入笠山でした。毎年来ても良いのではと言う人や年に2回くらい来ても良いのではと言う人もいた。山としては物足りない部分がありますが、展望のすばらしさは、別格ですから、また計画したいですね。みなさま、お疲れさまでした。

コースタイム

ゴンドラ山頂駅(10:40) … マナスル山荘(11:15-11:25) … 入笠山山頂(12:00-12:45) … ゴンドラ山頂駅(13:40)

雨などの予報のため、燕岳、房州アルプス、新川最上流ミニハイキングを中止しました。

講習会報告

★岩登り技術講習会(日和田山)(12月11日)

参加者 会員(障害者2名、健常者3名)

理事長の腰痛悪化のため、岩トシの代役を依

頼られ、役不足ですが、私がリーダーとして実施させて頂きました。お局様を初め参加者の皆様のご協力により、無事に岩トシを終了することができました。今日は、快晴で登山日和、高麗駅には山ガール、中高年のハイカーで賑やかでした。



アイゼンを付けて練習するFさん

午前中は、傾斜の緩い女岩下部で補助ロープを張り、冬靴での登攀、アイゼンを装着しての登攀を3～5回ほど繰り返しました。皆さん、小さな岩角をアイゼンの前爪でうまく拾いながら、登攀、クライムダウンを繰り返して練習しました。

昼は、見晴らしの丘で高麗の里を眺めながら、温かな陽光の中で昼ごはんを頂き、コーヒーをすすり、賑やかに歓談しました。

その他事業報告

★臨時総会開催

1月15日(日)に、千葉市にある(株)プロミス様のイベントスペースをお借りし、臨時総会を開催しました。次年度の事業計画と参加同意書について審議を行い、承認されました。

☆参加同意書提出のお願い

昨年の臨時総会で話が出て、今年度の理事会で検討(T理事が中心になって作成したものです)を行い、上記臨時総会で承認をいただいた、参加同意書の提出をお願いいたします。法人の運営者及び登山中のリーダーは、最大限、



岩場の上の広場にて

午後は、クライミングシューズに履き替えて、女岩の中央ルート、切り立った左ルート、レイバックの難しい右ルートをそれぞれ各人2～3回ほど練習しました。お局様はレイバック右ルートを先陣切って乗り切りました。クロちゃんは、岩トシ2回目ですが、すべてのルートを初日より格段に巧くスムーズにこなしました。ユミちゃんは登山靴ですべてのルートを登り切りました。コズエちゃんも、レイバック右ルートを粘りに粘り登り切りました。

帰りは、バスを改造した粋なレストランでナンセットのメニューを選び、会食して解散しました。なかなか美味しく気のきいたレストランでした。皆様お疲れさま。 記：H

また、総会の席上で、最少催行人員や行きたい山のアンケート実施などについて意見交換が行われました。詳しくは、臨時総会議事録をご覧ください。

安全に配慮して事故を起こさないように務めますが、完全に防げるものではありません。その点をご理解いただき、新年度の開始に当たって、提出をお願いいたします。なお、この同意書は、今後は入会時に一度だけ提出していただ

き、以降の登山やハイキングなどへの参加に有効とさせていただきます。

▲(株)コロンビアスポーツウェアジャパン様から寄贈いただいたトレッキングシューズについて

昨年の年末に(株)コロンビアスポーツウェアジャパン様から話があり、162足のトレッキングシューズを寄贈していただきました。このシューズをただ配布するのではなく、1足につき1,000円以上のご寄付をいただき、集まった寄付を2012年度に予定している東北方面の登山に、東北の被災地に住む子どもたちや被災者の方たちに参加していただく費用に充当することとしました。被災地の子どもたち(親を亡くされた子どもたちを優先したいと思っています)に参加していただきたいと思っ

ていますが、簡単なことではなく、いろいろと苦労して現地に繋がりを持つようとしています。何とか、がんばって、子どもたちに参加していただくと思っていますので、参加が決まった際はご協力をお願いいたします。

なお、現在、シューズの在庫は、男性用ですが、26.5cmが8足、27cmが7足、28cmが9足となっています。お知り合いの方などで欲しい方がいましたら、お勧めください。

また、これまでに集まった寄付金額は、314,500円です。

各種連絡事項

▼第13回視覚障害者全国交流登山京都大会への参加

4月6日(金)～8日(日)に行われる第13回視覚障害者全国交流登山京都大会に、当法人から会員外の方一人を含め、16名が参加することになりました。2年後の第14回は、

当法人が取りまとめを行うこととなりますので、多くの団体の方たちと交流を図ると共に、次回に繋げるよう、実施要領をつかんできたいと思えます。

▽定期総会の実施について

2012年度(第8回)定期総会を5月26日(土)午後に行います。詳しいことは、総会の議案書と共に、5月上旬にお送りしますが、

当日は、ピアノを演奏してくださる方が参加しますので、楽器の演奏会なども考えています。ぜひ、都合を付けていただき、ご出席ください。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

9月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしく申し上げます。(敬称略)

正会員

1名

●退会のお知らせ

残念ですが、下記の方が退会されました。

3名

編集後記

・理事長のつぶやき

(株)コロンビアスポーツウェアジャパン様からトレッキングシューズを寄贈していただいたおかげで、多くの方がお揃いの靴を履いて登山ができそうです。寄贈していただいた(株)コロンビアスポーツウェアジャパン様に感謝すると共に、皆様からいただいたご寄付を有効に生かさなければならぬ使命感を重く背負って、これからがんばりたいと思います。

津波などで両親を亡くしてしまった子どもたちを山に誘いたいと思い、宮城県庁に電話したところ、そのようなお子さんは126人いるということでした。ただ、そのうち2人は児童養護施設に入っているようですが、それ以外の子は、親戚などに身を寄せていて、連絡をする

ことは難しいということでした。そのため、学校単位で募集をしてはどうかとアドバイスをいただき、石巻市の教育委員会を紹介していただきました。教育委員会の方は生涯学習課が良いということで、これから、募集チラシを作って生涯学習課に送る予定です。

子どもたちの元に、私たちの思いが届くのか、また何人の子どもたちに参加してもらえるのか、いろいろな心配がありますし、参加してもらえる時には、こちらの体制もしっかりと整える必要があります。

多くの困難が待っていますが、がんばって進めますので、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

・次回発行予定は、6月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

